

まちの図工室 の実践

名張地区まちづくり協議会
連携協力：長岡造形大学

ときめき診断

まちの図工室では、ものづくりやをきっかけに、一人ひとりの「なんか好き」「なんか気になる」「ちょっとやってみたい」に出会うことを大切にしています。ここで生まれた小さな心の動きが、会話や外出、日常の支え合いへとつながっていきます。



地域の課題

名張旧町では、高齢化や空き店舗の増加、地域活動の担い手不足など、日常の中で人と人が関わる機会をどのようにつくるかが課題となっています。まちの図工室では、アートやものづくりをきっかけに、会話や外出、日常の支え合いにつなげる実践を行っています。

まちの図工室

まちの図工室は、名張市旧町の空き店舗を利用した、地域にひらかれた創作と交流の場です。決められた作品をつくるのではなく、色・形・音・素材、人との会話などを通じて、人それぞれによって異なる「なんか好き」「なんか気になる」「やってみたい」を探求することを大切にしています。

「ときめき診断」とは ときめきを体験し 見つけること

ときめき診断は、長岡造形大学と共同で進めている、一人ひとりの「ときめき」を見つけるための取り組みです。誰かから一方的に与えられるのではなく、参加者自身が体験を通じて気づき、自分に合った活動や文化的処方箋を選んで持ち帰ります。ここで見つけた小さな「ときめき」は、家でやってみる、誰かに話す、もう一度まちへ出かけるといった、参加者自身の日常の行動につながっていきます。

1. 問診



好きな色や形、素材にふれ、「ときめき」を探す

2. つくる



手を動かしながら、「なんか気になる」を探す

3. 自分で調剤



体験をもとに、文化的処方箋を自分で調剤

4. 持ち帰る



日常へ持ち帰り、ご自宅でもう一度やる

ときめいた体験を、 日常へ持ち帰る 「文化的処方箋」

この日のときめき体験は、この場で終わらせません。ときめいた体験を「文化的処方箋」として家へ持ち帰り、自宅で家族と一緒にやってみたり、友人に見せたり、玄関に飾って地域のひととの会話のきっかけになったりします。一人の小さな関心や楽しさが、人から人へ、日常からまちへ広がっていくことを目指しています。

1. 体験する



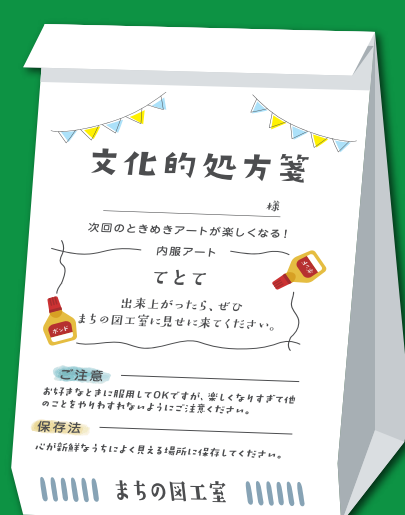
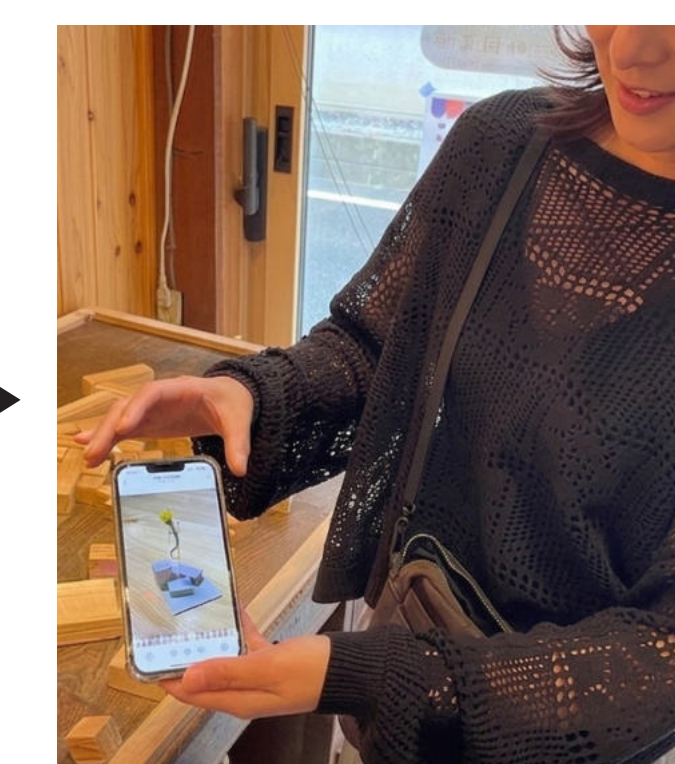
2. 「なんだか好き」が 生まれる



3. 持ち帰る



4. 誰かに見せる



文化的処方箋
を持ち帰って



家族と体験



友人と体験



お家に飾る



誰かに見せる

ときめく と、誰かに話 したくなる。誰かに見 せたいくなる。誰かにも体験 してほしくなる。
ひとり のときめきが、人 から人 へ、日常 からまち へつながります。